

## カナダ北西海岸先住民の展示について

岸上伸啓（国立民族学博物館・学術資源研究開発センター）

北アメリカ大陸のアラスカ南東部からカナダ西海岸を経てカリフォルニア州北部にかけて多数の先住民族が住んでいる。彼ら/彼女らは異なる言語やアイデンティティを持っているが、多くの経済的・文化的・社会的特徴を共有しているため、「北西海岸先住民」と総称されている。2020年度の特別展「先住民の宝」では、カナダ西海岸地域に住むハイダ民族やクワクワカワクウ民族を中心にカナダの北西海岸先住民の文化について展示した。

2021年の国勢調査によるとカナダのブリティッシュ・コロンビア州には約200の先住民族グループ（ネーション）が存在し、その総人口は約29万である。このうちの約20万人が北西海岸先住民である。この地域はサケやアザラシなどの水産資源とレッド・シーダーやスプルースなどの森林資源が豊富なため、漁労や狩猟、採集を生業としながらも1500年以上も前から定住性の高い階層化社会を形成してきたことが知られている。

18世紀後半にラッコの毛皮交易によってロシア人や欧米人から鉄器やライフル銃、毛布、ビーズ、食料品などの欧米製物資を大量に入手し、利用するようになった結果、招待客への贈与を伴うポトラッチ儀礼が大規模化し、トーテムポールも大型化するなど伝統文化が活性化した。一方、欧米人がもたらした伝染病、とくに1862年に流行した天然痘によって北西海岸先住民の総人口は半分以下へと激減した。また、1867年にカナダが建国されると1876年にはインディアン法が制定された。同法をもとに1885年から1951年までポトラッチ儀礼の実施が禁止されたために、言語や伝統文化が衰退した。さらに先住民を対象にした寄宿学校制度やキリスト教の宣教活動の実施によってそれらの衰退に拍車がかかった。

しかし、1951年にポトラッチ儀礼禁止令が解除されるとハイダ民族やクワクワカワクウ民族らを中心にカナダ北西海岸先住民は伝統文化と言語の復興活動を開始し、1960年代からトーテムポールの制作やポトラッチ儀礼の実施、シルクスクリーン版画の制作などを中心に伝統文化の復興と創造的継承が推進され、現在に至っている。

北西海岸先住民の伝統的な宝とは、先住民の視点からすると富の象徴である銅板紋章や交易によって手に入れたビーズ、特別な機会に制作したトーテムポール、家族内で受け継がれる名前や踊り、歌、地位などである。報告者は、何を宝として展示すべきかを悩んだが、ハイダ・グワイ博物館の関係者に相談し、同館の展示を参考にしながら北西海岸先住民文化全体を紹介することにした。その理由は、グローバル化時代に急激に変容している「伝統文化」や消えつつある母語が先住民にとってもっとも重要な宝だと考えたからである。

報告者は先住民文化の展示にはさまざまやり方があっても良いと考えている。その上で、展示の前、中、後でソース・コミュニティ（文化の担い手）の人びとと意見交換を行なうことおよびその結果をその後の研究や展示に活かすことが重要であると主張する。